

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
共同プロジェクト研究
2022年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属部局・職名		氏名			
	観光学部観光学科・教授		杜 国慶			
研究課題	スマート・ツーリズムの構造とメカニズムに関する観光学的研究					
研究組織 (研究代表者・ 研究分担者) 2023年3月現在	所属研究機関・部局・職名		氏名			
	立教大学・観光学部・教授 立教大学・観光学部・助教 浜松学院大学・現代コミュニケーション学部・准教授 多摩大学・グローバルスタディーズ学部・講師 帝京大学・経済学部・准教授 和洋女子大学・国際学部・助教 長崎国際大学・人間社会学部・講師 立教大学・観光学研究科・博士前期課程2年 立教大学・観光学研究科・博士前期課程2年		佐藤 大祐 澁谷 和樹 鄭 玉姫 李 崗 五艘 みどり 板垣 武尊 陳 慶光 伊藤エドワード 康 乃馨			
全研究期間	2022年度 ～ 2023年度					
研究経費※ (上段:支出金額)	2022年度		2023年度		年度	総計
	3,005,160	円	0,000,000	円	0,000,000	3,005,160
(下段:採択金額)	3,010,000	円	2,780,000	円	0,000,000	5,790,000

※1円単位で記入

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

スマート・ツーリズムとは、情報通信技術(ICT)を融合した新たな観光形態として注目されている。本研究は観光学の視点から、ICTの進化が観光産業全体へ急速に浸透して引き起こした変革を注目し、観光情報の個人化とリアルタイム化が観光者・観光業者・観光地3者の価値共創に与えた影響を分析することを通して、スマート・ツーリズムの構造とメカニズムを解明することを、研究目的とする。

さらに、コロナ禍で大きな打撃を受けた観光業において、スマート・ツーリズムはある程度威力を発揮し、観光業に新たな可能性を示したため、今後のWithコロナ/Postコロナ時代の観光産業において貢献できる可能性を探る。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[スマート・ツーリズム] [情報通信技術 (ICT)] [価値共創]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

概ね計画通りに研究を進めてきた。2022年7月23日(土)にオンラインで研究会を開催し、全体の研究目標を確認したうえで、各自の計画について意見交換した。本研究の主要メンバーを中心に、2022年7月8日(金)に「情報社会における観光の変容」を題する座談会を開催し、主な内容は観光学部の機関誌 TR 第2号に「特集 スマート・ツーリズム」として刊行した。スマート・ツーリズムの研究成果を社会に還元する社会貢献を果たした。代表者と分担者各自の研究経過と成果は以下のようにまとめる。

代表者杜はスマート・ツーリズムに関する文献を網羅してレビューし、研究の傾向と潮流を把握して論文をまとめ、「立教大学観光学部紀要に」掲載した。また、SNS投稿に基づいて訪日中国人観光者の飲食選好の空間構造を分析し、成果を日本観光研究学会全国大会論文集に掲載し、大会で研究成果を発表した。また、イタリアと台湾で現地調査を実施し、ICTによる観光情報の発信と利用について情報を収集した。

分担者佐藤は大学生の観光情報利用について、情報入手媒体がガイドブックなど旧来メディアからクチコミ情報や SNS など新たなメディアに移り変わっていく中で、大学生とその保護者世代との差異に注目して、データを入手し、データベースを作成した。

分担者澁谷は、MaaS をスマート・ツーリズムの一現象として位置づけ、その運営実態・課題の抽出と MaaS アプリのロコミ評価分析を進めた。まず、MaaS 関連事業の運営実態・課題の抽出について、MaaS 事業の実態と運営課題を明らかにするために、スマートモビリティチャレンジ推進協議会および国による支援事業であるスマートモビリティチャレンジ採択事業の実施範囲となる自治体に対するアンケートを実施した。アンケートは、国の支援の効果、資金・財源の状況、MaaS 事業の内容から構成される。課題としては、財源、人材、利用者確保が挙げられる。次いで、MaaS アプリに対する利用者評価分析において、MaaS において目指される移動サービスの統合には、情報提供や決済を一元的に行う MaaS アプリの存在が欠かせない。加えて、アプリの利便性が MaaS の利用促進には重要となる。そこで、MaaS アプリに対する利用者のクチコミを資料とした分析を行った。さらに、クチコミの記述に対してデータクリーニング作業(表記ゆれの修正、誤字脱字の修正、複合語の指定等)を行い、KH Coder にて頻出語の抽出および共起ネットワーク分析を実施した。KH Coder による投稿テーマの抽出はある程度実施できたものの、利用者のアプリに対する感情的な評価については解明できていないため、現在、フリーソフト R のパッケージを使用したテキストマイニングを試行している。また、本分析に対して技術受容モデルを適用することで、MaaS アプリの評価構造を明らかにする予定である。

分担者鄭は韓国の政府と自治体の ICT 対応とスマート・ツーリズムの動向について調査し、2022年8月に韓国での現地調査を実施した。スマート・ツーリズムを題目としたカンファレンスに参加し韓国におけるスマート・ツーリズムの動向として、APP 開発、モバイル決済、モビリティサービス、スマートデザインなどの動きが詳細に確認できた。また、仁川市と蔚山市、釜山市での現地調査では、各地域の ICT と観光の動向について調査を行った。

分担者李は、WeChat という中国版ソーシャルメディアの役割を分析し、在日中国人の日本国内旅行と観光行動の成立プロセスとメカニズムを解明することを最終目的として、まず、研究の方法論的枠組みを構築する目的で WeChat を介した情報収集し質的研究をおこなう可能性と注意点について先行研究を踏まえて検討した。次に、中国人による WeChat の利用状況と特徴についてバーチャルコミュニティをキーワードに文献を収集した。また、中国人経営の宿泊施設 4 軒を対象に、主客関係における SNS の役割に着目して調査を実施した。宿泊施設のオーナーが作った WeChat グループ(オンライン)に加入しバーチャルコミュニティにおける主客のインターアクションを参与観察している。

分担者五艘は、過去 2 年に調査してきたイタリアのスマート・ツーリズムに関し、今年度は対面でのインタビューが可能となり、2022年9月に調査を実施した。また、周辺国の状況を調査するため、オーストリア(2022年9月)、フランス(2023年2月)にもスマート・ツーリズムの現況把握に向けた調査を実施した。調査先は、コロナ禍でも集客を可能にした農村地域とし、地域の農村観光推進組織向けに行った。現在、調査結果をとりまとめている。

研究【経過・成果】の概要(つづき)

分担者板垣はバックパッカーとゲストハウスの情報伝達を担当しており、2022年12月～2023年1月、2023年2月にカンボジア王国シアヌークビルにおいて現地調査を実施した。東南アジアは海外旅行者のうち、バックパッカーの比率が最も高い地域の一つである。カンボジアの主要な観光地は、アンコールワットを擁するシェムリアップと首都のプノンペンが挙げられるが、タイランド湾に面する海浜リゾートであるシアヌークビルも近年人気が高まっている。そして、シアヌークビルの港から小型ボートで40分のロン島とロング・サンルーム島は、バックパッカーの間ではパーティーアイランドとして有名であり、両島にはバックパッカー・エンクレーブが形成されている。以前は離島であるため携帯電話の電波が届かず、地理的にも環境的にも隔離されて美しい海に囲まれながらのんびりと過ごせることが人気の一つであったが、近年ではWiFi環境が整備された宿泊施設や飲食店が増加している。他方、シアヌークビルの本土側では、近年、中国資本によるリゾート開発が急速に進められており、バックパッカーだけでなく中国人観光客に対応したAPPを導入しているカジノホテルや飲食店などが急増している。このように、シアヌークビルは情報通信技術の恩恵を受けて観光地域の変容が急速に進んでおり、本研究の課題を明らかにする上で好事例であると言えよう。しかしながら、コロナ禍以降、シアヌークビルの観光は大きく変化した。厳格なコロナ対策を講じていたカンボジアでは、2022年秋頃まで外国人観光客は皆無であった。中国資本の進出とICTの発展、コロナ禍によって、シアヌークビルにおける観光空間は大きく変容した。今年度実施した2回の調査では、ゲストハウスを含むロン島の宿泊施設から聞き取り調査を実施した。

分担者陳は大型イベントの観光情報コミュニティ形成に焦点を当て、台湾人スポーツツーリストが東京など海外のマラソン大会に参加する際に、LINE上のコミュニティ形成および情報伝達と価値共創に演じる役割を研究している。2022年6月から、台湾人スポーツツーリストが「ワールドマラソンメジャーズ」6大会(ロンドン、ベルリン、ニューヨークシティ、シカゴ、ボストン、東京)に参加する際に利用する6つのLINEトークグループにおける参与観察を継続的に実施している。The 33rd Annual Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) Conference (2023年2月)で初歩的な研究成果を発表した。また、東京マラソンの現地調査(2023年3月3日～6日)とLINEトークグループのメンバーを対象にしたインタビュー調査(2023年3月～)の分析結果を加えて、研究成果をThe 31st European Sport Management Conference (2023年9月)で発表する上で、国際ジャーナルへ投稿する予定である。上記主な担当範囲に関連して、本共同プロジェクトの分析視点の一つである価値共創と関連した研究成果を加筆修正し、論文は*Journal of Sport & Tourism*に掲載された。また、スマート・ツーリズムの応用例として、オンラインマラソンにおける参加者の行動パターンを調査・分析し、初歩的な研究成果をInternational Conference on Tourism Sciences (2023年3月)で発表した。

分担者康は東京23区を対象地域とし、中国の観光支援アプリ「大衆点评」に掲載された飲食店738軒に関するクチコミ投稿を収集し、飲食店属性(投稿数、消費額)に基づいて類型区分したうえで、クチコミ投稿にテキストマイニング分析を施し、訪日中国人観光者の飲食選好を観光者、メディア、飲食店、料理、観光資源の5つの側面との関係から解明した。成果は日本観光研究学会全国大会(2022年12月)にて発表した。現在、研究成果をまとめて学術誌に投稿する準備をしている。

分担者伊藤は外国人観光者によるAir B&Bのクチコミ投稿について分析し、宿泊施設の立地要因を解析している。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

- 板垣武尊：中国雲南省元陽におけるフラッシュパッカー向け宿泊施設の評価．立教大学観光学部紀要，24，2022，114-125.
- 板垣武尊・澁谷和樹：中国における日本人バックパッカーの観光行動の変化．日本観光研究学会全国大会学術論文集，37，2022，159-164.
- 康乃馨・杜国慶（2022）：ユーザー生成コンテンツにみる訪日中国人観光者の飲食選好．第37回日本観光研究学会全国大会学術論文集，2022，243-248.
- 五艘みどり：Covid-19のもとでの栃木県の観光動向と観光情報発信．帝京大学地域活性化研究センター年報，7，2023年．
- 陳慶光：Value co-creation in sport tourism: the practices of international participants in a tourism running event. *Journal of Sport & Tourism*. 2023.
- 鄭玉姫：韓国済州島における都市移住者の増加にともなう集落共同体のあり方．浜松学院大学研究論集，19，2023，13-24.
- 杜国慶：スマート・ツーリズム研究の発展と潮流—英文文献に基づいて—．立教大学観光学部紀要，25，2023，17-35.
- 杜国慶・康乃馨：UGCにみる訪日中国人観光者飲食選好の空間構造—東京23区を事例として—．第37回日本観光研究学会全国大会学術論文集，2022，249-254.
- 杜国慶：言語による観光地イメージと都市観光要素の異同—ヴェローナ市街の日本語と中国語のオンライン投稿を事例として—．立教大学観光学部紀要，24，2022，20-39.

② 図書

- 五艘みどり：「地域」の学び方—経済・社会を身近に考えよう（第10章担当）．帝京大学地域経済学科編集委員会，八朔社，2022年，280p.

③ シンポジウム・公開講演会等の開催

- 杜国慶：日本の冰雪観光と発展．中国吉林省冰雪産業シンポジウム，2022年10月，オンライン．

④ その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

- 板垣武尊・澁谷和樹：中国における日本人バックパッカーの観光行動の変化．第37回日本観光研究学会全国大会，2022年12月、金沢大学．
- 康乃馨・杜国慶：UGCにみる訪日中国人観光者飲食選好の空間構造—東京23区を事例として—．日本観光研究学会第37回全国大会，金沢大学，2022年12月．
- 佐藤大祐（2023）：日本人ハワイ観光客の旅程計画時における情報探索ツールの移り変わりからみた意思決定プロセスと行動の変化．地域調査論文集（ゼミ論文集）．
- 佐藤大祐（2023）：観光者の観察から見えてくるスマート・ツーリズムとアプリのはたらき．立教大学観光学部機関誌 RT，2，16-20．
- 澁谷和樹（2023）：モビリティを活用した観光の展開—新上五島町へのゼミ合宿と自治体へのアンケート調査をもとに—．立教大学観光学部機関誌 RT，2，21-26．
- 鄭玉姫（2023）：韓国におけるスマート・ツーリズム都市事業の動向—仁川市を事例にして—．立教大学観光学部機関誌 RT，2，27-31．
- 陳慶光：Exploring the Role of Online Community in International Sport Tourism: Line App Usage by Taiwanese Runners in the 2022 Berlin Marathon. *The 33rd Annual Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) Conference*, 7-9 February 2023, Fremantle, Australia.
- 陳慶光：Sport Tourists' Participation Patterns in Online Sporting Events: Evidence from the Tianzhong Marathon in Taiwan. *International Conference on Tourism Sciences (ICTS2023)*, 20-21 March 2023, Kanazawa, Japan.
- 杜国慶・康乃馨：ユーザー生成コンテンツにみる訪日中国人観光者の飲食選好．日本観光研究学会第37回全国大会，金沢大学，2022年12月．
- 杜国慶など：立教大学観光学部機関誌 RT「特集 スマート・ツーリズム」．48p.